

六月四日 (ニエース)

(三号)

◎ 一從業員より會社へ

睦まじく、昔より貴族伊那院會社に在りて平和を以し
 自ら任じ奉り吾伊那の岩も一朝一軽卒漢の爲に今や全く
 其の根底よりくつろみを以んとし、こゝろの有り様をのみ存す
 吾等が兄弟一部從業員も今や其のあやまざる世に一歩の
 爲め全く彼の毒牙の餌食たらんとし、こゝろあやまざる世に
 我親愛なる兄弟の一日も早く毒牙より逃るる事あり
 願ふもの有りや、その志を吾等は今後の兄弟の爲め
 兄弟を犠牲に—あくまで彼の輕卒漢を懲らし永遠に吾
 伊那の谷及伊那院會社の平和裡に置かれん事を切に祈
 望致します、仍も此際會社は置かれず—は尚今後指
 得に不拘徹底的に此の社會を信せんとする害毒を御取去
 彼下度、それをして、吾等にとりて本中の慈父であり
 慈母に有る會社と吾等は思ふてあります
 取し心水乍ら斯く—をを宣する次第であります。

一從業員より

伊那院氣鉄道株式會社 中

一其の慰問品と受りてられた芳名

録葉子 二折 湯の町 田原 庄三郎 後

一状態 徳田 三郎 徳田 三郎 徳田 三郎 徳田 三郎

金 子 統 加 的。